

奈良川源流域の都市計画道路関連市有地の自然公園化提案、市長陳情の報告

青葉区奈良町 1700-4 奈良川源流域を守る会
会長 渡辺 坦

「奈良川源流域を守る会」は、奈良川の源流域において、里山の自然環境、とくに生物多様性を維持できる生態系の環境をできるだけ保全し、それを子や孫の世代に引き継ぐため、1996年3月発足以来、13年にわたり活動を続けてまいりました(<http://nara.yato.jp/>参照)。

ご存じのように、横浜市の都市計画道路の見直しに伴い、都市計画道路奈良1号線の計画が廃止されることになりました。奈良1号線の通る予定であった奈良町西谷戸地区には、「はらっぱ広場」等のいくつかのまとまった市有地がありますが、この地区とその周辺は、奈良川源流域にあって、鳥類や昆虫、水生動物、ならびに多種類の植物の宝庫であり、また、都市部に残された貴重な自然環境として、近隣住民の憩いの場となっています。当会は、希少な動植物が棲息・生育するこの環境を自然公園として子や孫などの世代へと残してゆくことが、将来のために非常に重要であると考え、西谷戸にある市有地を自然公園化するための提案書案(下記参照)を作って、まず近隣住民の意見をお聞きし、その意見を反映して行政への提案をすることにいたしました。その節はご協力、たいへん有り難うございました。この案の骨子は次のようでありました。

地域の皆様にお配りした自然公園化提案の案 公園化の概要

(<http://nara.yato.jp/>参照)

- ・多種多様な動植物が棲息・生育できるよう、自然を保全し、近隣の皆様方が憩い、子供達が元気に遊べる場所とする。
- ・奈良川源流域の水源を利用して、魚類や貝類、カエル類、昆虫類などが棲息できる多自然型の小川を復元する。
- ・全体を湿地公園、草はら公園、樹林地のように分ける。
湿地公園(現状は休耕田)
 - ・現在ヨシなどが生えている休耕田(ナチュラパス西側)には、ヨシ原の部分と、深さ50センチ程度の池を作り、観察用の木道を設ける。農家の協力を受け、小学生の環境教育のための田んぼを復元する。
 - ・池は自然の流水とし、柵をして中への立ち入りを禁止する。池には各種の水生動植物が棲息・生育できるようにする。
 - ・ヨシ原は晩秋にのみ草刈りし、オオヨシキリやカヤネズミなどが生息できるようにする。
 - ・片隅に公衆トイレを設ける。
- 草はら公園(現状は、はらっぱ広場)
 - ・現在のはらっぱ広場の大部分は自然とふれあう場としての草はらのままとする。遊具は置かず、深さ30センチぐらいの池と、池を掘った土を利用した小さな山を作る。
 - ・池は子供たちが自由に入って遊べるものとし、底は足を取られないような設計とする。自然の流水によって水質を保つ。

- ・草はら部分は初夏と晩秋には草刈りするが、その他の手入れはあまりやらず、いろいろな草が自然に生えるにまかす（ただし、散策路を整備するための草刈りは行う）。
- ・高齢者にも憩いの場となるよう、片隅に木製のイスなどを置く。
- ・どんど焼きなどの伝統的な行事や地域のお祭りなどが行える広場、また、防災広場としての機能を維持する。

樹林地

- ・小田急分譲地との間の北斜面とそれに隣接する部分は、樹林地帯として残す。
- ・この部分はクズやササなどが他の植物を圧迫するようになったとき以外は、とくに手入れをしない自然の樹林とする。

ケアプラザ南側

- ・ここも大半は自然の草はらとする。
- ・一画に山野草園、薬草園を設け、里山の四季折々の草花を楽しめるようにする。
- ・青葉メゾン南側の 8 メートル道路については、住民の意見を尊重して対応を決める。

この提案書案を 7 月に近隣の 3 自治会（奈良上、小田急学園奈良、玉川学園台）の全戸、ならびに周辺の集合住宅等の各戸に対して、合計約 2800 部配布し、アンケート調査したところ、10 月 5 日時点で 226 通の葉書でご意見をいただきました。その大部分は自然公園化を望むものであり、その具体化方法等について多数のご提案をいただきました。改めて、「住宅街に隣接するこの貴重な自然環境を大切にしたい」という住民の皆様の希望がきわめて強いことを感じました。裏面にその概要を示します。

そこで、頂いたご意見に基づき、提案書を次のように改訂することにいたしました。

自然公園化提案の改訂を表す付記事項

- (1) 湿地公園の池、草はら公園の池は、利用形態に合わせ、十分な安全対策をとる。
- (2) 草はら公園に、車椅子やベビーカーが安全に通行できる遊歩道を設ける。
- (3) 草はら公園にも数本の落葉樹による木陰を作り、ベンチ等を置く。
- (4) 駐車場の設置が必要な場合には、小規模のものとし、環境に配慮する。
- (5) 公衆トイレについては、十分な防犯対策がとれることを確認してから設置する。
- (6) 公園全体の見通しをよくし、安心、安全な環境にする。
- (7) 公園化にあたっては、周辺の施設や機関などよく協議する。

この提案書を、まず、受け取り葉書が 214 通に達していた 9 月 8 日に横浜市道路局に提出し、226 通に達した時点で 10 月 13 日に青葉区に提出、ついで 10 月 26 日に横浜市長への陳情として提出いたしました。現在は奈良 1 号線の計画廃止の手続きが進行中で、それに平成 21 年度いっぱいかかるようなので、その計画に関連する土地をどうするかが決まるまでには、まだかなりの期間がかかるとおられます。奈良川源流域を守る会は、自然公園化の実現に向けて粘り強く活動を続けてゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

最後に、お配りした提案書案を見ていただいたこと、とりわけ、アンケート用葉書をお出しいただいたことに、深くお礼を申し上げます。

自然公園化提案書案に対するアンケート用葉書の意見集約

2009年10月5日

意見葉書受け取り数（配布数約 2800）

10月5日時点	226通	（回収率 8.1%）
内 記名	150	（66%）
無記名	76	（34%）

居住地域

奈良上自治会	15
玉川学園台自治会	36
小田急学園奈良自治会	68
モアクレスト玉川学園	12
その他	93（奈良北団地、奈良 x 丁目、成瀬台、玉川学園、他）

アンケート葉書の項目選択

(1) この自然公園化案でおおむねよい	208件	
(2) 自然公園化案に対する意見、要望	16件	複数選択あり
(3) その他の意見	5件	複数選択あり

意見

記入あり	127	（56%）
記入なし	99	（44%）

記入された意見内容（一人で複数種の意見あり）

- (a) 自然公園化に対する具体的要望はないが案に賛成する 12件
- (b) できるかぎり自然のままがよいが多少の手直しは必要（(1), (2) 選択）
- (b1) 水路を自然に戻し、源流域の自然環境を保全した憩いの場にしてほしいなど。 44件
- (b2) 住民が参加する形で進めることを希望。 6件
- (b3) 木陰、ベンチ、車椅子やベビーカーで行ける遊歩道がほしいなど。 11件
- (b4) 掲示板を設ける。 1件
- (b5) 8メートル道路の半分は土に戻す、道路は不要など。 3件
- (b6) はらっぱはそのまま、細々とくぎらない、樹林地も下刈りなど。 3件
- (b7) 田んぼがあるとよい。 1件
- (b8) 田んぼはなくてもよい。 2件
- (c) 犬について
- (c1) ドッグランを設けてほしい。 3件
- (c2) ドッグランにしない、犬は禁止にすべき。 3件
- (c3) 犬連れ用の道を分ける。 1件

(d) 駐車場について

- (d1) (高齢者や身体の不自由な人には) 駐車場が必要。 4 件
(d2) 駐車場不要(不法投棄等心配)。 1 件

(e) 池について

- (e1) 浅くする、柵をする、道路側にしない、管理方法、見通しを良くなど。 7 件
(e2) 外来種をいれないようにし、ゼニタナゴなど固有種の拠点とする。 2 件
(e3) ドブ抜きをの栓を設ける。 1 件

(f) 公衆トイレについて

- (f1) トイレ、手を洗う場所がほしい。 2 件
(f2) 防犯上問題なので設けない。 2 件
(f3) トイレは防犯上問題。 3 件
(f4) トイレの場所、管理、デザイン、清掃が問題。 9 件

(g) 安全性

- (g1) 安全性を重視し、安心できる公園にする。 3 件
(g2) 人目がとどくようにする。 1 件

(h) 管理方法、協力体制など

- (h1) ケアプラザなどと協調し、周辺自治会へも提案するなど。 2 件
(h2) しっかりした管理体制を作る必要がある。 4 件
(h3) 小学校と連携して自然に触れる機会として利用する。 1 件
(h3) 玉川学園とも協調する。 2 件
(h4) 休耕田も利用できないか。 1 件

(i) 保育園

- (i1) (野草園と書かれたところに) 保育園を移転し、現保育園付近の交通状況改善。 3 件

(j) 周辺環境

- (j1) 第一、第二公園と一体化、小田急住宅地から下りる小道など。 2 件
(j2) 歩道の整備、人家がまばらなので不安など。 2 件
(j3) 青葉台と鶴川を結ぶ交通路の整備。 1 件
(j4) 抜け道マップにのる(のが心配)。 1 件

(k) その他

- (k1) 山林をマンション等に変える一方、緑新税を取るのをおかしい。 1 件
(k2) 会の代表者名を書くべき。 3 件